卒論の書き方

卒論を書くという作業はおそらく初めてで、そして大方が最後の作業なので、そういう意味では結婚式に似ている。何度してもいいのだが、できればいいものを辛い思いをせずに最小限の努力で残したいというのは共通した願いだろう。

最小限の努力というとレポートを書くように考えるかもしれないが、それをやってしまうと最小限どころか最大の努力になっていく。卒論をレポートや作文と同じだと思っている人は少ないと思うが、念のために言っておくが全く違う。どう違うかというと結婚式披露宴と忘年会ぐらい違う。それぞれ形式を持っている点ではおなじだが、結婚式披露宴はさまざまなひとが参列しおよそその式次第はそのさまざまなひとが形式的に参加できるように決まっていることがある。それを知らずに結婚式を忘年会のようにしてしまうと真面目な親戚筋からなんだこれは的なクレームがでてしまうのだ。

逆に言えば結婚式披露宴の形式を知れば誰でもそれができるように、卒論もその手順を踏めば形になっていくのではないか、と思い至る。結婚式場に言ってアドバイザーと対面的に相談していくうちになんとなく式の内容が決まっていくようなものだ。

したがって、卒論を書くために必要な手順を式場コンサルタント的に明確にしておくという手法が有効なのではないだろうか。この手順をふんでいったらあら不思議卒論で来てしまっている的なマニュアルがあればいい。もちろん皆この方法を採用するとみな同じような体裁のものになってしまうので広く一般に公開できるものではない。しかし、卒論卒論と唱えていても卒論ができるわけでもない。そこで以下に卒論ができるまでの手順を書いてみることにする。もちろんこの形式が唯一のものではないので、各人の工夫によってよりよくなるし、それが望ましい。

（０）結論（とその理由）を決める
（１）9マスのセルをつくる（セルを①～⑨とする）
（２）それによって作文する
（３）①をタイトルとし、②～⑧をそのまま論文の要旨とする（「結論から言えば」というところを「この問いに対して」と書き換えておく。⑨は「おわりに」にとっておく）
（４）要旨にかかわる先行文献をまとめる
（５）「１．はじめに」を書く
（６）「２．先行研究」を書く
（７）本論「３．理由、４．結論」を書く
（８）「４．おわりに」を書く

卒論の書き方（その１）
（０）～（４）の説明をする。

（０）結論（とその理由）を決める
これは卒論の書き方のマニュアルなので、卒論の結論は各人で決めてあるという前提。

（１）9マスのセルをつくる

いきなり９マスセルってなんだ？というご質問はごもっとも。カンタンに言えば、そのマスに適当な語句を埋めていくとあら不思議、文章の筋書きができているというスグレモノだ。これは結婚式のコンサルタントから質問に答えていく内に式の内容が決まっていくのに似ている。

９マスのセル

①テーマ	②前提（近年、）	③問い（そこで、）
④答え（結論からいうと、）	⑤理由（なぜなら、）	⑥反論（確かに、）
⑦反論の反論（しかし、）	⑧例（たとえば、）	⑨将来（～していきたい）

まず④のセルに（０）の結論を書き込む。そしてそれが答えになるような問いと③に書き込む。つぎに④の理由を⑤に書く。⑧に結論を裏付ける例を書いてみよう。読者になったつもりで結論に反論を⑥に書いてみるが、その反論の反論を⑦に書いてみる。②に③の問いの背景を統計やニュースから書いておく。これまで書いたものを見ながらタイトルを①につけてみる。最後に、以上をふまえて明るく未来の抱負を◯◯をもっと考察してみたいとか書いてみる。はいできあがり。

（２）それによって作文する
９マスのセルが完成すると各セルにある決まり文句をつかって文章にするのはカンタンだ。②～⑨まで番号の順番に書いていくだけ。

（３）①をタイトルとし、②～⑧をそのまま論文の要旨とする（「結論から言えば」というところを「この問いに対して」と書き換えておく。⑨は「おわりに」にとっておく）

（４）要旨にかかわる先行文献をまとめる
先行文献は関連する本を選ぶか、ネットでキーワードで根気づよく検索するとヒットするので、それを先生と相談しながら決める。

卒論の書き方（その２）
いま、（４）まで終わったとしよう。ここからいよいよ本文になる。
１．はじめに：この論文の背景、および目的と内容の予告編。
２．先行研究：イケニエにする先行文献を要約して持ち上げる。
３．理由：先行文献にちょいとケチをつけて、理由をのべて結論につなげる。
４．結論：ついにイイタイコトを遠慮なく凄いだろ的に言う。
５．おわりに：これからの課題や感謝などを謙虚に書いて出すぎた真似をフォローする

（５）「１．はじめに」を書く
「１．はじめに」は論文を書く（ｉ）意味と（ii）内容が語られる。なぜこの論文を書く意味があるのか？　そしてなにをこの論文は語ろうとしているのか？　ということ。よくみると、起承転結＋αになっている。
（ｉ）意味
背景：９マスセルの②を事実にもとづいて書く（起：近年・・・）

他者：それに対して誰か言っていることを書く（承：先行文献のさわり）
反論：その誰かに対して軽く反論する（転：しかし、・・・）
（ⅱ）内容（結）
目的：反論につづいて「そこで本論の目的は、」と③の問いを立てる
結論：④⑤をできれば要旨と異なる表現で書く
論点：結論を導くための要点を「したがって本報告の論点は、」と書く
（ⅲ）論文の展開を目次的に説明する（＋α）
以下の文章はこういう展開になっているのでそのつもりで読んでね的な文を入れる。

（６）「２．先行研究」を書く
（４）で調べた誰かの論を要領よく展開していく。できるだけ持ち上げて書いて本文につなげる。先行文献は一つ選んだら、その文献が参考にしている論などがその文献にでている。いわば先行文献の先行文献だ。ドンドン遡る必要はなけいけれど、その歴史的経緯を「２．先行研究」の冒頭に書くと論文の格ががあがる。この節は、ちゃんと調べたぞ的にマニアックに書こう。

（７）本文「３．理由、４．結論」を書く
（６）で書いた誰かの論の一部の弱点をついて壊しにかかる。そして自説を展開し、あらためて⑤を論理的にあらわし、つぎに④に導く。そうしておいて、⑥、⑦、⑧で援護射撃する。

（８）「４．おわりに」を書く
考察、自分の経験、そして⑨を書く。最後の最後にこの研究をしたことの感想や感謝を述べて稿をくくる。

（９）付録をつける
ひたすら字数を稼げる付録。本文でつかった言葉や概念を授業ノートや先行文献にことよせてバンバン説明をいれていく。